

## 1 取組の概要

本校では1人1台端末の活用において、昨年度の月1回以上の現職教育の実施により、全教員が基本的な操作をすることができるようになってきている。しかし、1人1台端末の活用が主体的、対話的で深い学びの実現につながっているかというところまでは到達していない。そこで今年度は、生徒主体の学びに焦点を当て、生徒の自己実現のために必要な「学習支援」と「心の支援」の両面における1人1台端末の効果的な活用を模索した(図1)。

### (1) 「学習支援」での活用

学習支援での活用は、学校における「授業」と、家庭における「家庭学習」の2つの場面で行った。

まず「授業」においては、現職教育を実施し、各教科で育成する資質・能力について確認した。その後、協働的な学びに発展するような学習課題の設定や、他の人の意見を聞いて自分の学びが深まるような学習活動の設定について各教科会で話し合い、それらの場面において1人1台端末を積極的に活用する授業実践に取り組んだ。年度末には、どの教科の取組が効果的であったか、生徒のアンケートをもとに検証し、各教科会で来年度に向けた話し合いを行った。

「家庭学習」においては、使用しているワークに無料でついてくるデジタルドリル・デジタルブックの積極的な活用推進を行い、自分のペースで主体的に学ぶ学習を可能にした。1人1台端末の画面上にアイコンを表示できるようにし、時と場所を選ばずに基礎的・基本的な知識や技能を身につ



図1 「学習支援」と「心の支援」における活用



図2 デジタルドリル・デジタルブック

ける環境を整えた（図2）。また、3年生の生徒には1・2年の内容のものも、2年生の生徒には1年の内容のものも使用できるように設定し、学習に遅れが生じている生徒への学びの保障ができるようにした。教員には全生徒の学習状況が把握できるように、画面設定とスタディログに関する現職教育を行い、考查期間や教育相談週間を通じて、全教員で生徒の学習支援を行えるようにした。

## （2）「心の支援」での活用

生徒の自己実現のためには「心の支援」が欠かせない。まずは生徒の思いを知ることが大切と考え、教育相談コーディネーターと話し合い、Metamojiでの教育相談目標シート（図3）を作成し、以下のような教育相談の手法をとった。

- ①生徒は、県から配付される夢へのパスポートへの記述をもとに、「生活」「学習」「部活動」「人間関係」の4分野での1年後の自分の姿について考え、その姿になるための目標や行動をワークシートにマッピングしていく。
- ②年度当初の教育相談で、今年の自分の目標を担任と確認し合う。
- ③学期末ごとに行われる教育相談前には、できたものにはピンク、できなかったものには水色、困っているものには黄色の着色をして振り返りを行い、担任との面談を行う。

この教育相談目標シートは、生徒の振り返りと教員との懇談による計画修正によって、生徒自身が自分との対話を繰り返しながら、自己の成長を楽しむことができるように工夫されており、生徒主体の学びに結びつく大変有効な取組となった。また、このシートはコピーして書き加えていくため、毎学期の様子が履歴として残り、教員も生徒の成長の足跡をいつでも確認することができるという点においても大変良い取組となった。

## 2 成果と課題

「学習支援」と「心の支援」の両面で1人1台端末を活用して良かったことは、全教員が生徒の学習履歴や成長の履歴を見ることができるため、生徒一人ひとりに対して、多面的多角的なサポートが可能になったことである。しかし今年度は、システムの構築や画面設定に試行錯誤する時間が多く、「学習支援」と「心の支援」の両面での活用が、効果的であったか検証することはできなかった。来年度は、各教科の本質を見極めながら、さらに生徒主体の学びにつながる1人1台端末の活用について研究するとともに、効果の検証も行っていきたい。



図3 教育相談目標シート